

国語総合

次の文章は、西川明彦『正倉院のしごと』からの一節です。これを読んで、後の問いに答えなさい。なお、原則として句読点やカッコなどは一字に数えます。

正倉院宝物の再現模造は、〆ひと・もの・ところの三つの要素がすべて揃ったときに、【ア】実現が可能となる。しかし、近年はそれぞれについて問題が生じており、事業の継続には課題も多く残されている。

形状を写し取る際、アシュツドした考古資料などの場合は、直にすずはく錫箔を貼って石膏やシリコンで「型取り」することがある。正倉院宝物にはそのような手法を用いることができないため、寸法を細かく計測してせつこう図面や型紙を作成する「見取り」を行う。

近年は考古資料を含め、多くの文化財でデジタル技術を用いた三次元計測を行うようになり、正倉院宝物についても対応が可能なものについては取り入れている。【A】、オリジナルを写す作業、言い換えると「入力」については、技術革新によって精度が高く、しかも非接触による安全な手法で情報が得られるようになってきた。

【B】、「出力」についても、二次元(3D)プリンターによって形状の再現では精度の高いものが得られるようになった。しかし、材質や構造についても原物と同じように作る再現模造の場合、最終的には模造する〆ひとが身につけた伝統的な技術や経験に依るところが大きい。経年によってオリジナルに生じた欠失部を復元し、歪みを修正するには実技者の技術なくしては成しえない。もちろん、デジタル技術を用いたレプリカにしても、デジタルと伝統の融合を標榜するクローン文化財にしてもあ〆ひとの技術が介在することには変わりはない。

そして、模造を作った〆ひとが、そこで得た天平の技を伝えていくことが模造事業の理想で、それなくしては模造事業の価値は半減するときにいえる。ただ単に模造品が完成すればそれで終わりではなく、また宝物の作り方を伝えることでもない。宝物を再

現した「ひと」が、それによって得られた天平工芸の「ところ」を作品に反映し、その結果として、現代の工芸界に蘇った古代の「わざ」が継承されていくことも事業のめざすところである。事実、正倉院宝物の再現模造を機に、永く途絶えていた技法の復元や新たな作品の製作に繋がった例も多い。

ただ、模造を作る「ひと」に限らず、伝統工芸に「タズサわる」ひと全般が減少している。たとえば漆工芸の場合、漆の採取や採取に使う漆掻きの道具作りの後継者不足が大きな課題である。

近年、再現模造をするうえで何よりも困難なことは、使用する天然材料の調達である。それは模造品自体に用いる材料にとどまらず、製作で用いる道具の材料も含めてのことである。もちろん、正倉院宝物の作られた天平時代も材料の調達には相当な困難を伴ったと思われる。一方、現在のように輸送手段が発達しても、数が減ったり、産業構造の変化で需要がなくなったりして、入手できない材料が増えている。

C、象牙や犀角はもとより、鼈甲細工で使うタイマイやアオウミガメの甲羅は、ワシントン条約によって輸入できなくなっている。また、紫檀などの外来木材も自然保護のために産出国が輸出規制しているため、入手がきわめて困難になっている。さらに、わが国で一般的に流通している杉や檜といった木材でも、再現模造では使えないことがある。それは宝物同様のきわめて細かい木目の材が現在では手に入らないためである。【イ】奈良時代にはそのような上質な材となる樹木が豊富に生育していたものと思われる。

D、自然環境の変化が伝統工芸に関わる産業全般に影響をおよぼしている。たとえば、漆工芸に関連する蒔絵に用いる極細の筆には、琵琶湖畔の芦原に棲む鼠の毛が最適とされるが、その入手が危ぶまれている。猫やモンゴルの野鼠など、代替品が模索されたが、琵琶湖の鼠毛にヒツテキスするものはいまだ見当たらず、伝統的な技術自体が「窮鼠」と化している。

なお、鼈甲細工のタイマイに関しては、ワシントン条約の輸入規制が始まる前に駆け込み輸入され、同時に養殖も始まった。また、一方では需要の減少もあって、鼈甲の加工業者の廃業が相次ぎ、日本国内でタイマイ材料がかなりだぶついた。しかし、このことは「安心材料」の供給には繋がらず、業界の衰退は「もの」だけではなく、「ひと」の枯渇に繋がる。このままでは伝統的な技術が

工
シヨウメツしてしまふ畏れがあり、模造事業の将来にも影を落とす。

工芸品に表された文様は下絵が描かれた粉本ふんぼんとして伝わることもある。しかし画工は粉本がなくても作品に描かれた文様のパターンを見取って写し、さらにそれを元に派生的に生み出すことができる。このような形のないもの、たとえばデザイン、意匠も「シヨウメツ」と表現できるだろう。

また、模造に関わる人々の情熱、正倉院宝物に対する「思い」も「シヨウメツ」であり、再現模造には不可欠である。模造製作を通じて、現代の工人が天平時代の工人の「シヨウメツ」に触れ、ある意味「会話」することによって、「天平の気分」が伝承される。

しかし、実際には苦勞を重ねて再現したものを、子や弟子にすら漏らさないのに他人に伝えることはできないとし、技術公開を拒否される場合がある。「ウ」シヨウメツ、工芸の世界においては、技法については秘伝とされることがあり、通常は一子相伝、あるいは一番弟子にのみ口伝する。それはおそらく、秘伝とは変哲eのないものであるがゆえに、明かすことによって価値が失われるという世阿弥ぜあみの「秘すれば花」が意味することに等しいように思われる。それがゆえに秘密にされ、何かの拍子に伝承されない事態が生じることがある。

近年、メジャーリーグの投手が投法についての動画情報を公開する「オープン・シェア」なるものをはじめたという報道があった。個人の技術が盗まれ、真似されることを承知のうえで、積極的に技術を公開する取り組みである。業界全体の技術の底上げに繋がることを期待した画期的な試みとして紹介されていた。

正倉院宝物の再現模造では、何らかの理由で伝わらなかつた天平の工芸技法について再現し、伝承することをめざしていることは【エ】述べた。技術公開を強要することはできないが、秘伝の伝授に大所高所からの理解と共感を得られるようにはたらきかけていくのもわれわれの「シヨウメツ」である。

《中略》

正倉院宝物に限らず、文化財には保存と公開という相反する事柄の両立が求められる。文化財という觀念が生まれた近代以降、いつの時代も、その葛藤かつきょうをカカオえている。文化財はただ静かに置いておくだけでも時間の経過とともに劣化が進行するため、非公

開とするのが最良の選択となる。しかし、公開しないと、その価値が人々に共有されないため、本来の存在意義が失われるのも事実である。

一般的に文化財の公開は「現在の人」に利益を与えるのに対し、保存はその利益を「未来の人」に与えることになる。文化財の保存と公開のいずれに大きな価値を認めるかはさまざまな意見があるが、おそらく、「現在の人」においては積極的に公開してこそ存在する価値があるという考え方が多数を占めるであろう。その多数派にとって、保存は現時点においては有益でないため、保存上の理由で公開を制限すると、「出し惜しみ」、あるいは「死蔵」と受け取られてしまう。

しかし、保存なくしては公開、さらに研究についても叶わないことはいうまでもない。保存の現場を預かる立場からすると、保存こそ最上位の「専制君主」であるべきだと考えている。その下には研究のうち、保存に資するものを上位、探求のためのものを下位とし、公開は最下位に位置する。生存権を上まわる権利が存在しないのと同じく、そこに上下逆転はありえない。しかし、この表現では威圧的すぎるので、一步引いて保存・研究・公開が独立した司法・立法・行政の三権分立のごとく、それぞれが監視と抑制の役割を持つ関係に等しい、としておく。そのうえで、保存上の観点から、利活用による損耗、調査知見がもたらす情報の価値をたえず天秤てんびんにかけながら、展示公開や調査研究への要求に応えられるような判断を下す態勢が望まれる。

*問題作成の都合上、文章の一部を省略・変更しています。

問題

問1 ー線アゝオのカタカナを漢字になおしなさい。

問2 ー線aゝeの漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問3 【ア】ゝ【エ】に入れるのにふさわしい語をそれぞれ次から選び、番号で答えなさい。同じ番号は一度しか使えません。

- 1 おそらく
- 2 すでに
- 3 そもそも
- 4 とうてい
- 5 はじめて

問4 A ー D に入れるのにふさわしい語をそれぞれ次から選び、番号で答えなさい。同じ番号は一度しか使えません。

- 1 また
- 2 しかし
- 3 一方
- 4 このように
- 5 たとえば

問5 ー線あゝひとゝの技術が介在する」とありますが、再現模造の「出力」でその技術は具体的にはどのように介在しますか。

問6 ー線いゝ再現模造」においてゝものゝ」についての問題はどのようなことですか。三十字以内で書きなさい。

問7 〓線う「ッひと」の枯渴」とは、鼈甲に關しては何を意味していますか。最もよく当てはまるものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 鼈甲の養殖が始まるとタイマイ等を捕獲する人が不足するということ
- 2 ワシントン条約のために鼈甲の輸入ができなくなり、輸入業者が倒産するということ
- 3 鼈甲の需要が減少し、タイマイの養殖技術を伝える人が減少するということ
- 4 鼈甲の加工業者が、鼈甲需要の減少で廃業するということ

問8 〓線え「模造製作を通じて、現代の工人が天平時代の工人の「ところ」に触れ」ることによって得られるものとは言えないものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

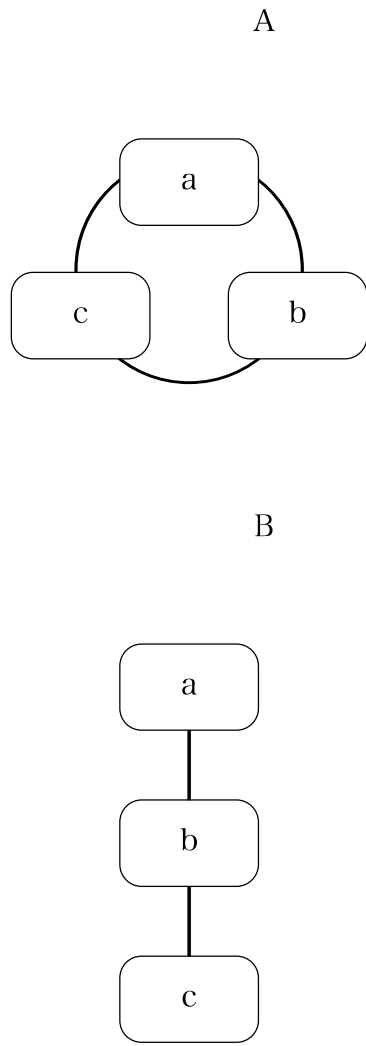
- 1 天平時代の技法
- 2 天平時代の作品下絵
- 3 天平時代のデザインや意匠
- 4 天平時代の工人の宝物にかける思い

問9 〓線お「オープン・シエアー」とありますが、正倉院宝物の再現模造における「オープン・シエアー」を本文中の言葉五字で抜き出しなさい。

問10 〓線か「保存の現場を預かる立場」とありますが、その立場から考えると、理想の状態と現実の状態はどのようなもので
すか。

- ① 理想の状態、現実の状態を表す図はそれぞれどれですか。
- ② 記号a、b、cに当てはまる言葉を後の語群から選んで書きなさい。

【図】



【語群】

- 研究
- 行政
- 探究
- 公開
- 司法
- 保存
- 立法

問11 正倉院宝物の再現模造の三つの要素と、その問題とはどのようなことですか。また、解決の方向として筆者が考えている
ことは何ですか。百五十字以上二百字以内でまとめなさい。